

子育て世代・働くひとの視点で北本を変える！
安心をすべての人に届けたい

きたもと

well-being 通信



北本市議会議員
 さくらい すぐる
桜井 卓



公式ホームページ
<http://sakuraisuguru.jp/>



第**30**号

北本市の準主要課題の解決策を考える(1) 誰もが安心して暮らせるまちにするためにやるべきこと

北本市にとっての主要課題と言え、新ごみ処理施設の整備と久保特定土地区画整理事業(西仲通線・デーノタメ遺跡)ですが、その他にはどのような課題があるでしょうか?2回に渡って北本市の準主要課題とその解決策について考えます。

転入者の増加で人口減少は鈍化 シティプロモーションで選択される市に

消滅可能性都市と言われた北本市の人口は新型コロナの影響による都心回避の傾向から転入者が増加し、**人口減少は鈍化**しています。しかし、これは一時的な傾向かもしれません。

人口減少対策としては、転入者に特別な支援をしたり、多額の借金をしてインフラ整備をするのではなく、市民の皆様が暮らしやすい環境を整えるとともに、災害に強いこと、豊かな自然環境、子どもを大切にするまちなど本市の強みをシティプロモーションで効果的に発信し、北本市を選択してもらうようにすることが重要です。誰もが安心して暮らせるまちを創ることは、引き続き私の最重要課題です。

誰もが安心して暮らせる社会に向けて アウトリーチ体制の強化が極めて重要

北本市では令和4年4月から「福祉総合相談窓口」を設置し、福祉にまつわる様々な相談を一元的に受け止めています。一方で、役所には相談しにくい、自分で何とかしたいと思っている方も多く、待っているだけでは必要な支援に繋がらない人がたくさんいるのも事実です。

支援が必要な人を早期に見出し、支援に繋げていくには、**アウトリーチ**(対象者のいる場所に積極的に出向いて働きかけること)を行う**専門職の増員**が不可欠です。コミュニティソーシャルワーカー(CSW)として配置し、支援機関等と連携して地域の福祉課題に取り組む体制作りが急務です。

高齢者世帯の増加で見守りが課題に 緊急時通報システムの普及が必要

高齢者の一人暮らしや、高齢者だけの世帯が増加しています。自治会長や民生委員の方から、気に掛けている人がいるが家の中で倒れてしまっていたらわからない。地域の見守りにも限界がある、というお話を良く聞きます。

北本市には**緊急時通報システム**という制度があります。ペンダント型のブザーを貸し出し、緊急時に自分でブザーを押すと、受信センターに通報されるものですが、急に意識を失った場合など自分でブザーを押せないと通報できません。自宅の人が良く通る場所にセンサーを設置し、一定時間通過しないと自動的に通報される「人感センサー式」の導入が必要です。

また、北本市ではこのサービスの対象者を「市内在住で疾患などにより常時注意を要する75歳以上のみの世帯、その他特に必要と認められる世帯」としていますが、他市では65歳以上が一般的です。年齢要件を緩和し、普及率を高める必要があります。**人感センサーの導入と要件緩和**により、緊急時通報システムの普及を図るべきです。



(出典) 広報高崎2018年1月号

居住支援と家賃等補助で 住宅確保要配慮者の入居を支援

「高齢者や障がい者の一人暮らしだとアパートが借りられない」という話を良く聞きます。

国では、低額所得者、被災者、高齢者、障がい者、子育て世帯を**住宅確保要配慮者**と定め、居住を支援する仕組み（住宅セーフティネット制度）を作っています。入居の際や、居住の継続にあたり支援するとともに、家賃や入居の際の費用を補助することができます。要配慮者が安心して借りられるだけでなく、大家さんや不動産屋さんも安心して貸せるようになるととても有用な制度ですが、全国的にもあまり活用されていません。

居住支援の取組は、今後極めて重要になってくると思うので、実現に向けて取り組んでいきたいと思えます。

駅東口の中央通線は早期拡幅を 南大通線の国道17号線から先へ延伸も



北本駅東口から国道17号線方面に向かう中央通線は、東間通りまでの整備が終了しました。東間通り交差点から国道17号線までの330mは、朝はスクールゾーンで車が通行できず周辺道路の混雑の原因となり、夕方は下校する中丸小や北本高校の子どもたちにとって危険な状態となっています。整備の優先度が高い市道です。

また、南大通線は国道17号線で丁字路となってしまう、こちらも周辺道路の混雑の原因となっています。山中交差点から北東へ延伸し、**県道312号線を直線化**する必要があります。

この他、生活道路の整備（舗装・側溝）、通学路の安全確保も優先度の高い課題です。本市は近隣市と比較して土木費が著しく少ないことから、安定的な予算の増額が必要です。

南部地域の交通利便性向上を コミュニティバス・デマンドバスで桶川へ

新駅建設は平成25年の住民投票で否決されています。ゴルフ練習場跡地に大型倉庫が建設されたこともあり、新駅建設は現実的ではありません。今重要なのは、南部地域から北本・桶川両駅、両市内の商業施設・医療機関・公共施設へのアクセス向上を図ることではないでしょうか。

桶川北本まちづくり議員連盟でも、二市連携の広域デマンド交通について検討すべきという声が挙がりました。桶川市だけでなく、鴻巣市とも連携して、車がなくても生活できるよう、交通利便性の向上を図る必要があります。

もっと子育てがしやすいまちへ 公園にカフェとプレーリーダーを

北本市には子供公園と総合公園があり、休日は多くの親子で賑わっています。しかし、公園で子どもを遊ばせることが、親の仕事のようになっていないでしょうか？

子どもが主体的に遊べるようにするためには、**プレーリーダー**が有効です。プレーリーダーは、子どもと一緒に遊び、遊びのきっかけを作ったり、興味や関心や遊び心を引き出す人です。県内では川口市や朝霞市で配置しています。子どもはプロのプレーリーダーに任せ、大人はゆったりとカフェで過ごせる時間を作れば、親子にとってより充実した休日となるのではないのでしょうか。



カフェのイメージ

ウェルビーイング通信のバックナンバーは 私のホームページからご覧いただけます。

特に大切なことはホームページで、できるだけ早くお伝えする必要がある情報は、TwitterやLINEで発信をしています。ぜひ、フォロー、友だち追加をお願いします。



LINE
公式アカウント



発行者 桜井すぐる後援会（代表：桜井 卓）
住所 〒364-0034 北本市高尾1-166-6
電話 090-9389-3572
メール sakuraisuguru.kitamoto@gmail.com
Twitter @sakuraikitamoto

早稲田大学教育学部卒業。元埼玉県職員。49歳。
令和元年5月1日から北本市議会議員（1期目）。
現在は、健康福祉常任委員会（委員長）、議会広報
広聴委員会、埼玉中部環境保全組合議員。